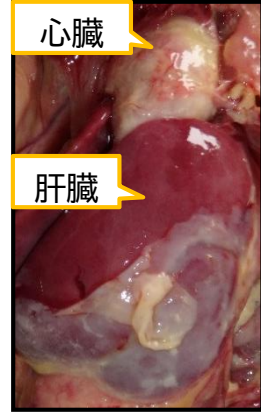


家畜衛生情報 (鶏編)

大腸菌症が散発

- 近頃、大腸菌症が散発しており廃棄率上昇の原因となっています
- 主な感染源は鶏舎の塵埃で、1gあたり10-100万個の大腸菌を含んでいます
- 解剖所見では、心外膜の混濁肥厚や肝臓表面に線維素性の滲出物(気嚢炎)がみられます(右図)
- 対策としては、オールアウト後の除糞、水洗、消毒による菌量の抑制や外的環境にあった飼養管理(温度・換気)に注意しましょう
- ほかにも、鶏の健康を維持するために、IBDワクチン等の飲水投与について水切り時間や水量などを調整し、適切な投与を心がけてください



これから暑くなりますので、より一層、飼養管理にお気をつけください

2020年7月から飼養衛生管理基準が変わります

主な変更点

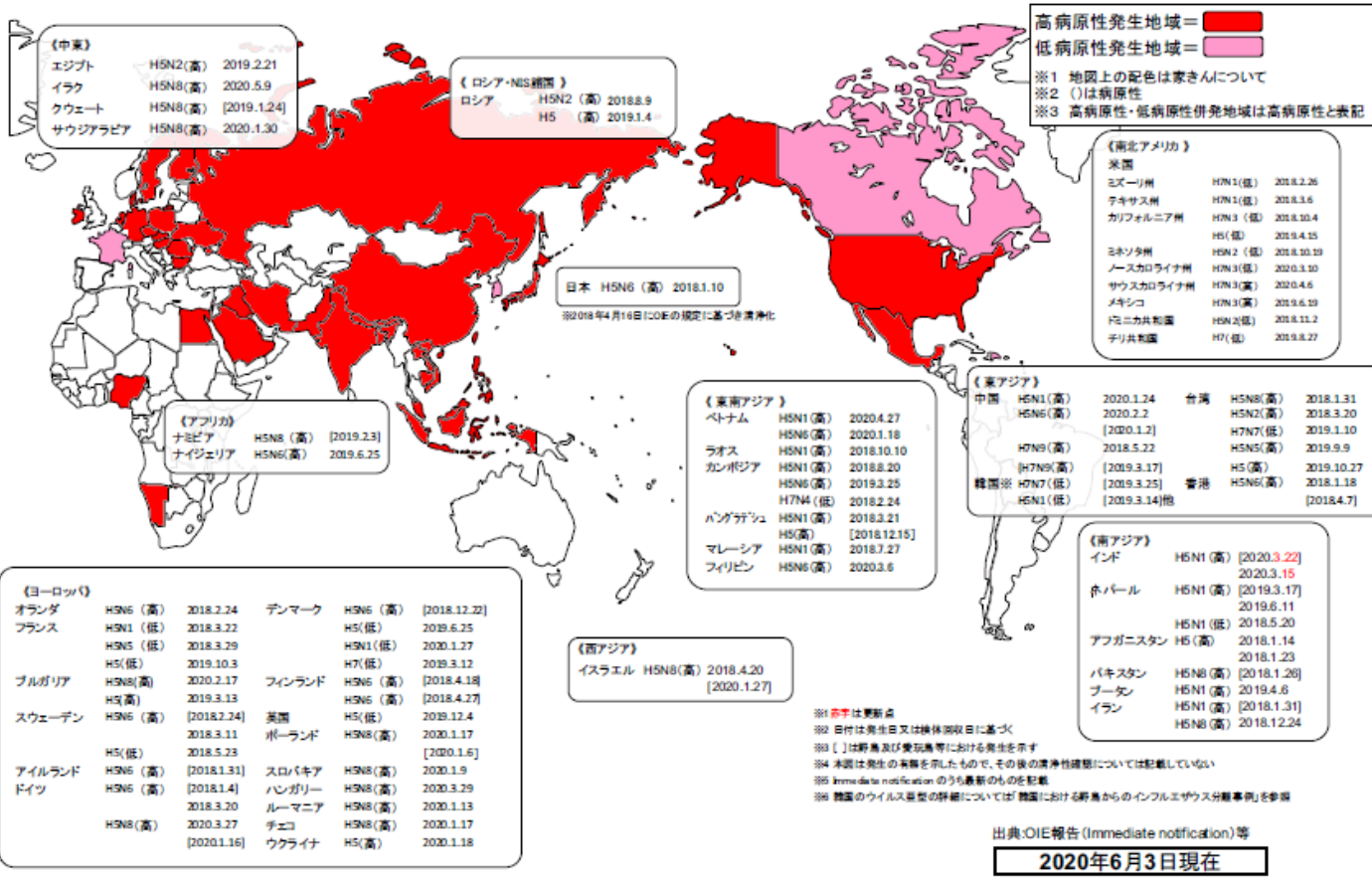
- 消毒設備等の衛生対策設備の設置個所を明示した農場の**平面図を作成**
- 飼養衛生管理**マニュアルを作成**し、従業者等へ周知を徹底
※農林水産省のマニュアル例ができ次第、お伝えします
- **衛生管理区域内での愛玩動物(ネコ等)の飼育禁止**
- 家きんの異常に関する記録(獣医師による処置の状況)と家畜保健衛生所、担当獣医師の指導内容を記録し保存(1年以上)
- 特定症状は発見次第、直ちに家畜保健衛生所に通報する旨を**全従業員に周知**
- 飲水に適した水(水道水等)以外の水を給与する場合は消毒する
- 家きん舎ごとに長靴を用意し、**履き替え前後の靴が交差しないように**する
- 家きん舎、衛生管理区域から出る際も**手指・車両・物品の消毒**を行う
- 飼養管理に**必要のない物品を家きん舎に持ち込まない**
- 野生動物が隠れる場所をなくすために、衛生管理区域内の**整理整頓**を行い、定期的に敷地の**消毒**も行う

現在の飼養衛生管理基準もこれまで通りお気をつけください

世界における鳥インフルエンザの発生状況

日本では高病原性鳥インフルエンザは寒い時期の病気ですが、世界では暖かい時期でも断続的に発生しています。

家きんの高病原性・低病原性鳥インフルエンザの発生状況(2018年以降)



令和2年度 倉吉家畜保健衛生所スタッフを紹介します

所長 井上 禎文 病性鑑定室長 石井 亮

次長(衛生指導担当課長補佐兼務) 森本 一隆

《 衛生指導担当 》

係長 中村 耕太郎
技師 三井 香保
会計年度 柄 裕子
会計年度 牧田 知美

《 防疫担当 》

課長補佐 千代 隆之
課長補佐 大石 美智子
係長 西田 昌樹
技師 天野 弥咲

《 病性鑑定室 》

課長補佐 小谷 道子
係長 水野 恵
技師 朱 夏希
技師 田中 勝貴
技師 山崎 健太
会計年度 井戸 智子

家畜に異常を見つけたら/家畜衛生に関する問い合わせは・・・
倉吉家畜保健衛生所 (0858)26-3341
(夜間・休日は緊急連絡先に自動転送)

この情報は家保が配布した紙ファイル等に綴って下さい